

リョービ ミヤコシ

デジタル印刷機を共同開発 - B2 判液体トナー方式、毎時 8000 枚 -

(株)ミヤコシ(宮腰巖社長)とリョービ(株)(浦上彰社長)は、B2 判液体トナー方式デジタル印刷機の共同開発を発表。drupa2012 のミヤコシブースに参考出品することを明らかにした。同機は、ミヤコシが持つ超微粒子液体トナー電子写真技術と、リョービが持つ高速用紙搬送技術を融合することによって、B2 判用紙で毎時 8000 枚の高速印刷を実現したデジタル枚葉印刷機。両社では 2013 年度中を目処にそれぞれのブランドで発売する計画。

drupa のミヤコシブースに参考出品

近年、小ロット、短納期、バリエーションデータに対応したデジタル印刷技術が注目を集める一方、既存のオフセット印刷は、大ロットに強く、高品質、低ランニングコスト、高速印刷という点で依然優位性がある。今回発表されたデジタル印刷機は、これらのメリットを兼ね備えた「新方式の印刷機」をコンセプトに開発されたものだ。

3 月 27 日に開かれた記者会見で、宮腰社長は、枚葉方式でのデジタル印刷機開発について「比較的電子化されにくい紙媒体の印刷に応用できるとともに、長年印刷業界様が慣れ親しんできた枚葉方式での製品化は急務だ」と説明した上で、「今後、当機をミヤコシの製品ポートフォリオの核と位置付け、多様なニーズに幅広く応えていく」との考えを示した。

同機は、ミヤコシが drupa2008 において輪転機で実現していた高解像度の超微粒子液体トナー電子写真技術と、リョービがオフセット枚葉印刷機で培ってきた高速用紙搬送技術を融合することによって、B2 判用紙(最大用紙サイズ 788 × 600mm、最大紙厚 0.4mm)で毎時 8000 枚の高速印刷を実現したデジタル枚葉 4 色印刷機。超微粒子液体トナーを感光ドラムから用紙へオフセット転写させることで 1200dpi という高解像度で繊細な印刷表現が可能となっている。

1~2 ミクロンという超微粒子液体トナーは、トナー層の薄膜化が可能で、紙が従来持つ光沢を損なうことなく印刷できるほか、折り加工時の割れの問題も軽減できるというメリットがある。

さらに、超微粒子液体トナーは定着までに必要なエネルギーが少ないこと、圧胴式の「グリッパ用紙搬送システム」採用によるオフセット同様の見当精度、さらに 1 色ワンタワーの機械構成などが高速化に大きく寄与している。

小ロットのカタログ、ポスター、パッケージなどの印刷用途に加え、高品質な大判のバリエーション印刷もターゲットとしており、drupa2012 における反応を見極め、2013 年度中を目処にそれぞれのブランドで発売する計画。

(2012 年 04 月 05 日 印刷ジャーナル 掲載)